

～チャレンジ事業審査委員会委員からの講評コメント～

団体名：さとうきびの里 南房総

■さとうきびを南房総の地場産業として定着させようという意欲的な事業です。適地適作を目指した技術面でのノウハウの蓄積に加え、規模拡大に伴うパートナーの拡大や関連イベントの実施など、ネットワーク構築にもバランスよく対応されています。事業計画をしっかりと策定していて課題も一つひとつ解決している点も素晴らしいと思います。

■沖縄のイメージがあるサトウキビですが、南房総市で栽培されていることを初めて知りました。

身近にあることを知り、収穫・搾り体験や製造品に興味を持たれる方が首都圏には大勢いると思いますのでPRについても工夫の余地があると思います。

市原ぞうの国や農業法人との連携にも取り組まれているほか、連携先に蒸留所が作られるとのことなので、今後の事業の成長、拡がりを楽しみます。

■サトウキビの栽培が南房総の気候風土に合っていることを再確認され、地域の他団体とそれぞれの特性を活かしあえる連携ができつつあることは今後の活動の持続性に大きな期待がもてる。固定されたリピーターばかりではなく、地域の良さをより広範囲に知らせ参加してもらえるような工夫をさらに期待します。

■本年の活動で、作業＝イベントは圃場拡大に繋がり、南房総でサトウキビ畑？の意外性が人の集約になり、面白いことに人は魅力に関心していますね。実際に参加したかた方は生産から廃棄物委の活用までのサイクルの魅力にはまったのではないかと思います。今後の活動にさらに期待しております。

■順調にサトウキビ畑が増え、耕作放棄地対策に繋がっています、地域からも関心が深まっており、イベント参加者も多く、事業に対する期待が大きいことが伝わってきます。審査員から指摘のあったバガス利用も、早速、ゾウの飼料として活用され、また、堆肥利用も研究されており感心しました。来年度がチャレンジ事業の最終年となりますが、商品化の実現を期待しております。